

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	こどもヶ丘保育園根岸園
活動日時	令和7年3月10日(月)
クラス名(年齢)	きりん・らいおん組(4・5歳児)
年間テーマ	光

1.活動テーマ

〈テーマ〉

作品に光を灯そう

〈テーマの設定理由〉

・製作した作品に光を灯すことを楽しみにしていた

2.活動スケジュール

- ・13名参加
- ・手直しは2～3名ずつ行う。

3.環境をデザインする

・キャンドル型LEDライト ・セロハンテープ ・画用紙 ・カラーセロファン ・花紙

4. 探求活動の実践

〈活動内容〉

室内を暗くして、保育者がすべてのぼんぼりにひとつずつ光をつける。一つ目をつけると「おー！」と喜ぶ声が聞こえた。すべてのライトのスイッチを入れると「お祭りみたいだね。」と子ども同士で会話を楽しむ。保育者がカラーセロファンの光が出なかったこと、このままにしておくか手を加えもう一度挑戦してみるかを問いかける。このままで良いという子どももいれば、ちょっと考えてみるという子どももいた。考えて手を加えたい子どもからは「画用紙が欲しい。」との声が出たので、画用紙を準備した。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

子どもの言葉・姿	写真
・以前作ったぼんぼりに光を照らしてみようと提案すると、喜んで室内に集まる。 ・乳児が園内にいた為、廊下の電気を消すことはできなかった。ぼんぼりに入れた電球の色がオレンジ色だったため色が壁や床に反射することはなかった。「全然映らないね。」と残念そうな様子を見せる。 ・スズランテープにぶら下げて飾っていた為、その様子を見て「お祭りみたいだね。」「お祭りの看板みたい。」と喜ぶ子どももいた。 ・「天井に映って欲しかった。」という子どもがいた為、自分たちで工夫しながら再度作品に手を加える。 ・花紙で製作していた子どもたちは、「次はこっち(カラーセロファン)でやってみる。」と、ぼんぼりの天井部分をカラーセロファンで覆っていた。 ・カラーセロファンの上から細かく切った画用紙を貼り、光の漏れ具合を調節する子どももいた。	  

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

ぼんぼりに光を灯す場面では、オレンジ色電球だったため、上手くカラーセロファンが反射しなかった。反射しなかったことを通して、次はどうしたらよいかと考える姿が見られた。また光を当てることだけではなく、どんなふうに光らせたいかということを考える気持ちが強くなった様子だった。

手を加えた前と後の写真を見比べるなどの活動を計画することや、電球の色を白色灯に替えてみるなど、今後はより光の変化に興味をもてるような活動を展開し、継続して進めていきたい。